

教育委員会だより -学(まなぶ)-

(4月1日号)

教育長コラム

教育長 宇野 成佳

—協働学習と個別学習とのハイブリッド化—

昨年度、市内の小中学校は、入学式・始業式後、約2か月間の臨時休業でした。学習の遅れや教育活動の正常化を目指し、夏季休業を約2週間に短縮、行事等の縮小を行い、3つの密（密閉、密集、密接）を避け、手指消毒やマスク着用等の衛生管理と毎日の健康管理を行い、1年を終えることができました。これも子供たち、保護者、地域の皆さん、教職員のきめ細やかな努力の積み重ねのおかげです。

さて、今年度から中学校においても新学習指導要領が実施されます。たくましく生きる力の育成は、引き続き教育の根底にあります。その中のキーワードに「対話的な学び」があります。これは、子供同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通して、自己の考えを広げ深めることです。

もう一方で、GIGAスクール構想の推進により一人1台のタブレットを活用した学習が始まります。大きな目的は、「個別最適な学び」の推進です。これは、子供たちがそれぞれの興味・関心に応じて探究的な学習を行うことです。従来からの「個に応じた学習」について指導者側からではなく学習者側から考えたものです。

先月、各学校では、タブレットを活用したスタートプログラムを行いました。子供たちの感想は、

「タブレットを使って、インターネットで調べることができる。知らないことを知ることができてうれしい」

「ロイロノート（教室内でインターネットを使って生徒同士が情報共有しながら学習を行うシステムアプリ）を使ってみんなの意見が一度に見られるので、自分の意見と比べたり、友達の意見を知ることができたりして楽しい。これまでは、友達がノートに書いたことを見ることができなかったので、とても便利だと思う」

などでした。とても楽しそうにタブレットを使い、学習していました。

これからの教育は、協働学習と個別学習をハイブリッド化することが大切です。両者がバランスよく融合された学習により、子供たちは、多様化する社会の一員として、直面する課題を自ら解決していく力を育んでいきます。

「指導される側」から「学習する側」への視点に立ち、考えていくことになります。